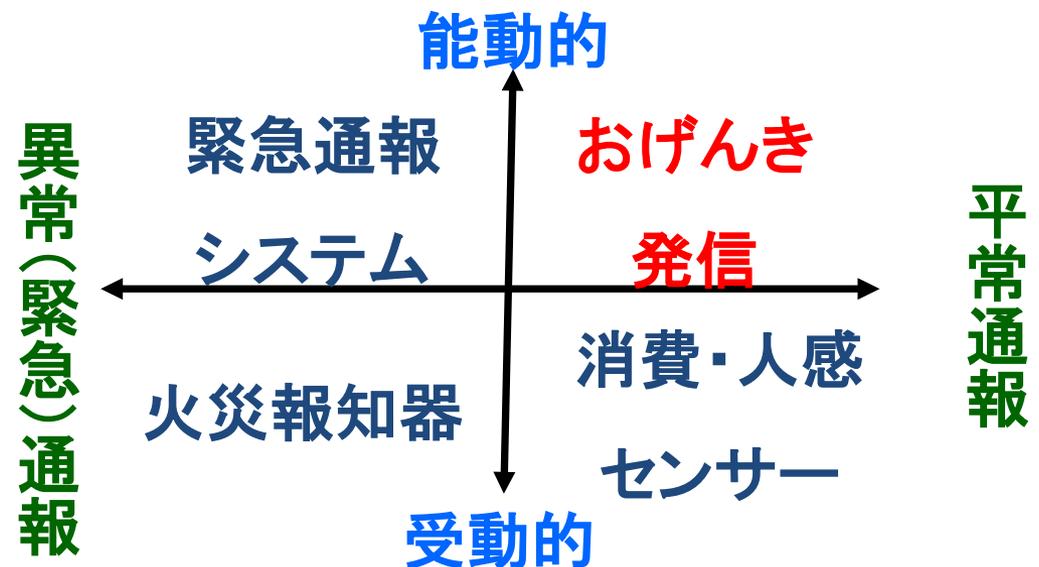


基盤となる「おげんき発信」の取り組み

- 高齢者が能動的に「今日もげんきです！」と家庭用の電話機から発信する仕組み
- 岩手県立大学のプロジェクトが地域と連携し開発
- 平成15年度から川井村において、Lモード電話機を使って実証実験
- 平成21年度から、岩手県・岩手県社会福祉協議会とともに、家庭用の電話機から発信する仕組みを実証実験
- 平成22年度から岩手県社協と青森県社協が、市町村社会福祉協議会を見守りセンターとして事業化

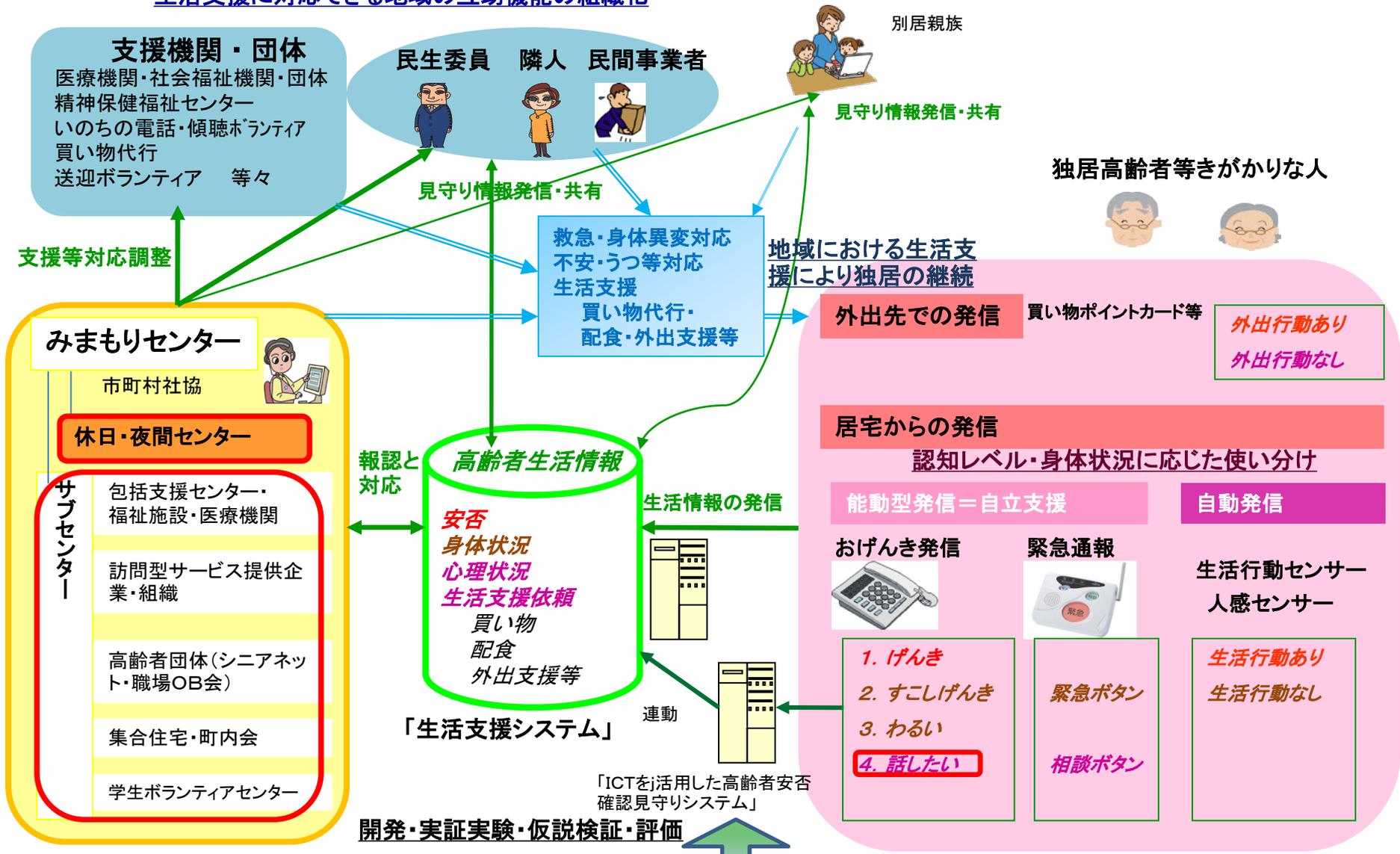


プロジェクトの構想

| これまでの取り組み |  本プロジェクトの達成目標 | |
|--------------------------------------|--|------------------------|
| <p>“おげんき”発信は、高齢者の遠慮感を払拭し自立を促進する</p> | <p>①家庭用の電話機から「4. 話したい」ボタン(生活支援相談窓口)を24時間365日受ける体制を整備する</p> <p>②身体レベル・認知レベルに応じた安否確認(異変把握)システムの使い分けを図る</p> | <p>ICT活用</p> |
| <p>地域の互助機能の組織化により、見守りの役割分担が明確化する</p> | <p>③地域の互助機能の組織化</p> <p>④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける生活支援体制づくり</p> | <p>社会システム形成</p> |
| | <p>⑤有効性検証</p> | |
| | <p>⑥持続可能な取り組み成果を地域に残す</p> | |

プロジェクトの構想

生活支援に対応できる地域の互助機能の組織化



学際的な研究体制 ・職際的な検討体制 (岩手県立大学・行政・社会福祉協議会・民生委員・企業等)

フィールド

滝沢村
【郊外スプロール型】

盛岡市・松園地区
【ニュータウン型】

盛岡市・桜城地区
【都心型】



赤線内面積 1,631.86km²
(比較:香川県 1,876.47km²)



宮古市・川井地区
(旧川井村)
【過疎・高齢化進展型】

出典) 岩手県庁HP
をもとに作成。
注) 平成18年1月10日
現在の市町村状況

①「4. 話したい」ボタンの使用体制整備

コミュニティの特性に応じた「みまもりセンター」体制整備

| 地区 | 地域性 | みまもりセンター | モニター数 |
|----|--|-----------------------------|---------------------------------------|
| 滝沢 | 【郊外スプロール型】 人口5万人の村。岩手県立大が立地し、行政の協力度が高い | 滝沢村社会福祉協議会 滝沢第1みまもりセンター※ | 63 |
| | | 滝沢村社会福祉協議会 滝沢第2みまもりセンター※ | 25 |
| | | 川前地区県立大みまもりセンター※ | 20 |
| | | 小計 | 108 |
| 松園 | 【ニュータウン型】 昭和40年代から開発された人口約2万人の盛岡市郊外の団地 | 社会福祉法人育心会 H25.03.31からPJ室 | 20 |
| 桜城 | 【都心型】 盛岡駅前で集合住宅を中心に孤立死対策に取り組んでいる地域 | 盛岡駅西口地域包括支援センター※ | 20 ① |
| 川井 | 【過疎・高齢化進展型】 旧川井村。平成22年から宮古市に合併。東京23区の面積に約3千人弱居住。高齢化率50%に近い。 | 宮古市社会福祉協議会川井支所 | 37 ② |
| | | 門馬サブセンター(元民生委員・米穀店として買い物代行) | (川井支所とともに見守り) |
| | | NPO法人かわい元気社(有償生活支援サービス実施) | (川井支所とともに見守り) |
| | | 合計 | おげんき発信185 センサー③ ※夜間・休日センター転送128 |

②身体レベル・認知レベルに応じた安否確認(異変把握)システムの使い分け

おげんき発信・緊急通報一体型の開発と運用
滝沢地区【郊外スプロール型】



(効果)

- ・知的障害・認知症でもワンプッシュでおげんき発信
- ・毎日の確実な安否確認が可能になる
- ・独居の限界が伸びる
- ・4者の情報共有・連携



異変把握の確実性・
信頼性・効率性向上

おげんき発信(ワンプッシュ型)
滝沢村社協・川前地区県立
大みまもりセンター

情報共有
連携

「緊急通報システム」
滝沢村
受託: アイネット(株)

③地域の互助機能の組織化 アクションリサーチによる介入

滝沢地区【郊外スプロール型】川前地区

- 平成10年の開学以来、県立大と地域の交流
 アパート経営者等が学生への支援→学生と交流→学生が雪かきなどボランティア活動
- 平成23年度 川前地区の民生委員が、おげんき発信利用促進(20件依頼)
- 平成24年8月 アクションリサーチ委員会によるフォーカスグループインタビューにより川前地区高齢者支援連絡会発足

構成メンバー

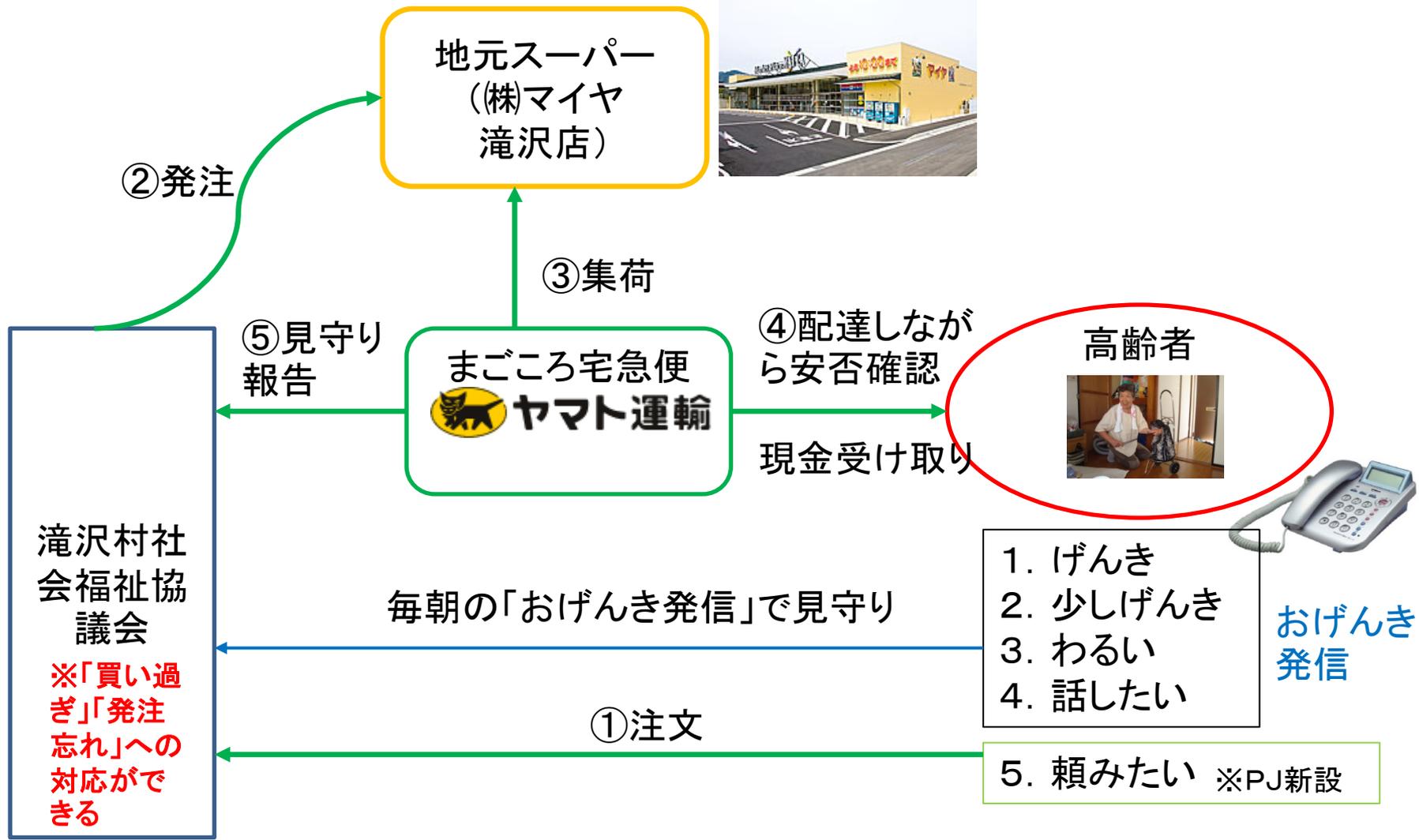
民生委員、町内会長、老人クラブ
役員、滝沢駅前安心安全の会、
ローソン滝沢駅前店、(有)まごのて、
滝沢村社会福祉協議会、県立大
大学生ボランティアセンター
事務局:プロジェクト室



④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制づくり

滝沢地区【郊外スプロール型】

まごころ宅急便（平成25年4月～8月実証実験、その後事業化）



④高齢者の異変や生活支援に対応できる情報の流れとコミュニティにおける支援体制づくり

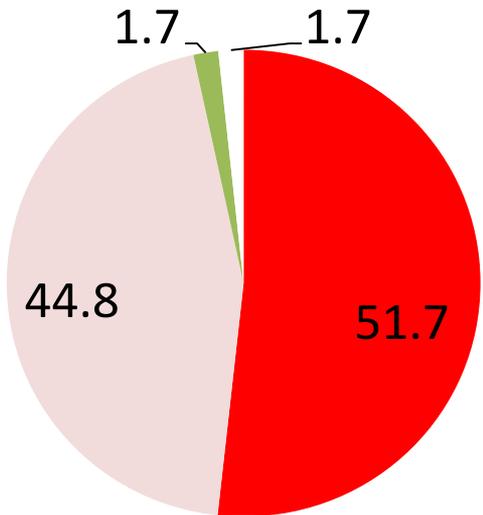
滝沢地区【郊外スプロール型】川前地区高齢者支援連絡会



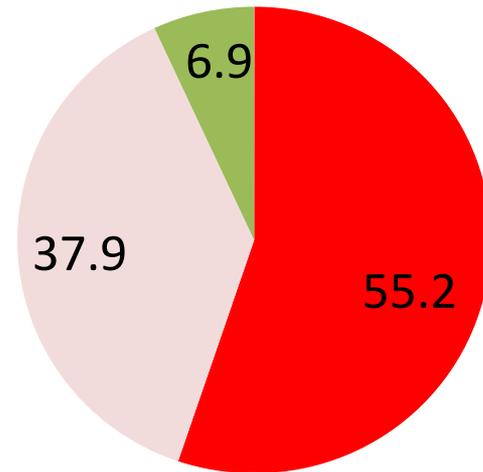
⑤有効性検証

滝沢地区【郊外スプロール型】
民生委員調査(25年度調査)

生活支援サービスへの評価



プロジェクト評価



- 大変評価
- どちらかといえば評価
- どちらかといえば評価できない
- 無回答

⑥持続可能な取り組み成果を地域に残す

1. 岩手県・青森県内では社会福祉協議会の事業と連携し継続・発展
2. 震災復興への成果移転(平成23年度～)
3. 医療・福祉の見守り連携
4. 多様なデバイス活用(スマートフォン・テレビ等活用)
5. 第5次おげんき発信(岩手県におけるICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくり研究会発足)
6. 平成24年度採択「健康長寿を実現する住まいとコミュニティの創造」(代表:慶應大学 伊香賀俊治先生、高知県梶原町)と連携
7. ICTを活用した見守りの標準化と体系化(日本遠隔医療学会みまもり分科会)
8. 「まごころ宅急便」はヤマト運輸により全国展開へ

ICTを活用した孤立防止と生活支援型コミュニティづくりの動向

